

令和3年8月29日（日曜日）

7団体が東北大会へ 無観客で2年ぶり開催

合唱県大会
高校一般

第73回全日本合唱コンクール県大会（県合唱連盟など主催）は28日、盛岡市内丸の県民会館で開幕し、高校、大学職場一般の2部門を行った。昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止となり、2年ぶりに無観客で開催。生徒らはステージで仲間と歌える喜びと感謝

を胸に、練習の成果を披露した。高校部門は22団体が出場し、不来方、盛岡四女声、盛岡一、盛岡二が金賞を受賞。銀賞は盛岡四混声、一関一・付属中。金賞と銀賞の計6団体が東北支部大会（9月24、26日、山形市）への出場を決めた。

盛岡四音楽部の菅原幸奈部長（3年）は「緊張したが、コロナ禍で励んできた練習の成果を出せた」と開催を感謝。混声は谷川俊太

郎詩の「生きる」を豊かな表現で歌い上げ「この状況を乗り越えるために頑張ろう」という思いを込めた。岩手の代表として恥じない合唱を作り上げていきたい」と次の舞台へ意気込んだ。

一関一は付属中の3人を含む42人の構成で発表。音楽部の鈴木明星部長（3年）は「マスクを着けている練習とは感覚の違いがあったが、混声ならではの広がりのある音楽ができた」と充実の表情だった。

大学職場一般は、唯一出場した盛岡コメント混声合唱団が金賞で東北支部大会に出場する。大会は団体同士の接触がないよう、入退館の時間を厳格に定めるなどコロナ感染対策をして実施。患者の発生などで出場できない場合は音源審査の救済措置も講じている。最終日の29日は小学校と中学校の2部門を行う。

（岩手日報）